

新宮高等学校

実施日時	令和2年11月10日（火）
参加者	生徒173名、教職員15名、計188名
実施内容	津波DVD視聴、土嚢積み体験、ロープワーク訓練 応急手当訓練、搬送法体験、JRによる臨時列車緊急避難訓練等

ねらい

1. 県教育委員会主催の「県高校生防災スクール」事業の一環として講義や訓練を通して高校生の防災意識を高める。
2. 地域防災のリーダーとして災害時に率先して活動できるような生徒の育成を目的とする。

主なプログラム

1. 防災についてのDVD学習等（消防）
2. 応急手当、搬送法（消防）
3. 土嚢積み体験、ロープワーク（自衛隊）
4. JRによる臨時列車緊急避難訓練（JR）

概要

1. 1学年40名と引率教員2名が、JR緊急避難訓練に参加
2. 1学年生徒133名が小グループに分かれて消防・自衛隊による防災訓練に参加

参加者感想文

登下校時に電車に乗っていて、地震が起きたら、とにかく高台に逃げようと思った。

電車乗車時に地震が起こった時の対応を学びました。災害時に電車のドアを開けるレバーの場所を知ることが出来ました。私は電車通学生ですが、通学時に大震災に遭遇しても今回学んだことを活かし、あわてずに対応したいです。

心肺蘇生法を学んだのは2回目でしたが、忘れていたことも多く勉強になりました。今回学んだことを災害時には生かして行動し、たくさんの人の役に立ちたいと思いました。

大地震が発生したときは、できるだけ自分や身近な人たちの身を守る行動をとれるよう心がけたい。怪我人を搬送するときにはひとりで運ぶ方法や二人で運ぶ方法を学び、非常に勉強になった。

学んだことをこれからの緊急事態の時に活かせるようにしたいです。ロープワークや土のう積みなどについては、台風などの水害の際にも役に立つのでしっかり覚えておこうと思いました。

この防災スクールで人に頼らず、まず自分から行動することが大切だと学んだ。

成果と課題

【成果】

昨年と同様、JR 西日本、自衛隊、新宮消防署の協力を得て、生徒に様々な体験をさせることができた。実際に災害が発生したときに、どのような行動ができるのかを学ばせることができたと思う。事後の感想を読んでも概ね前向きな反応であり、生徒達は災害時にどう対応すべきか、何をすべきか等についてこの防災スクールから多くのことを学んだと思う。今後も関係機関の協力を得ながら、充実した防災スクールの内容を検討していきたい。

【課題】

防災意識は年々高まっているように感じるが、常に防災に対する意識を持たせるような継続的な取り組みが必要である。日頃の授業や総合的な探究の時間などを活かして、生徒自らが防災について学ぶ姿勢を身に付けていけるように普段から仕向けることも必要である。今後も様々な取り組みを工夫していく。

